

## 令和元年度 第1回弘前市立博物館協議会会議録（要旨）

日時 令和元年11月21日（木） 午後2時開始 午後3時45分終了  
場所 弘前市民会館 2階「第1小会議室」  
出席者 葛西 徹 委員長（議長） 島内 智秋 副委員長  
小嶋 義憲 委員 北原かな子 委員  
出 佳奈子 委員 武井 紀子 委員  
瀧本 壽史 委員（7名）  
欠席者 鹿内 葵 委員（1名）  
事務局 館長 成田正彦 館長補佐 佐藤孝子 運営係長 川村快之  
主事兼学芸員 北上真生 主事兼学芸員 齋藤明日美（5名）

---

### 令和元年度第1回弘前市立博物館協議会 次第

- 1 開会
- 2 案件
  - (1) 平成30年度事業報告について
  - (2) 令和元年度事業計画及び経過報告について
  - (3) 令和2年度事業計画について
  - (4) その他
- 3 閉会

---

**議長** 令和元年度第1回弘前市立博物館協議会を開催します。  
委員の出席者数は7名で、弘前市立博物館管理運営規則第3条第3項により会議は成立します。  
案件の審議に入ります。案件（1）平成30年度事業報告について、事務局から説明をお願いします。

**事務局** 【配付資料に基づき、事務局より説明】

**議長** ただいまの説明に対し、質問やご意見はありませんか。  
展覧会入館者数について、昨年度は25,892人で目標3万人とありますが、これは毎年3万人ですか。

**事務局** 以前の弘前市経営計画では目標値を3万人と定めていました。現在の総合計画では特に定めていませんが、前回の目標値をそのまま継続しています。

**議長** これまでの最高入館者数は何人ですか。

**事務局** 平成10年以降の記録で、平成23年の築城400年祭の年で40,216人、その次が平成26年の36,115人です。  
市町村合併以降は平均2万8千人台で推移していますので、博物館としましては3万人という数字を常に目指しながら取り組んでいきたいと考えています。

**議長** 次に、案件（2）令和元年度事業計画及び経過報告について、事務局より説明をお願いします。

**事務局 【配付資料に基づき、事務局より説明】**

**議長**

ただいまの説明について、質問や意見はありませんか。

今年度の歴史講座は、武井先生も講師をされますが、いかがでしょうか。

**武井委員**

今年度は、ポスターを作っていただき、弘前大学の学内に掲示したところ、講演されるんですねと声をかけていただいております。

**事務局**

今回、長谷川先生から、弘前大学の取り組みを博物館と連携してやらないかというご提案をいただき、実現したものです。また、学生さんにも興味を持って来てもらいたいということで、大学にもポスターを貼らせていただきました。

**小嶋委員**

今年度の「博物館で一句」というイベントは、毎年続けて欲しい。また、前川建築ということで、展示以外の取り組みも進めて欲しい。

**事務局**

「博物館で一句」は、前川國男が伝えたかった博物館ロビーからの眺めを見て俳句を詠み、来館したお客様に投票していただいたものです。

前川建築については、市議会からの意見もあり、来年1月から特別公開「2階からの眺め」を開催します。冬期間であれば事前に申し込みを受けることで公開可能なことから計画しました。

**武井委員**

少ないから事前申し込みという形をとっているのですか。

**事務局**

2階は、現在作業場所として使用したり本の収蔵場所となっていて、常にお客様に公開できる状況ではないので、事前に申し込みがあれば公開できる状態にして実施してみようということです。

**出委員**

前川建築を利用する、PRしていくのであれば、前川建築に合わせたモダニズムアートをテーマとした特別企画展を開催すれば、もっと注目が集まり人がたくさん来ると思います。

**事務局**

以前、前川建築を題材に展覧会を開催したことがありますが、全国を回っている展覧会から資料をお借りして展示したものです。当館として独自に開催できる資料はないため、難しいところです。

**出委員**

同じ時代のモダニズムアートと関連しているので、1人だけでなく、質のいい作品がいくつかあればいいと思います。

前川さんだけではなく、関連した作家や外国人の作家などその時代の作家はたくさんいるので、オリジナルな企画展ができたらと思いました。

**議長**

前川國男の建物を大切にすることは解散したのですか。

**事務局**

木村産業研究所での展示は閉鎖したと聞いていますが、解散したかどうかは承知しておりません。

**小嶋委員**

木村さんのところでどういう資料があるのですか。

**事務局**

市内の前川建築の写真とか模型のようなものがあつたと記憶しています。新聞の情報でしかありませんが、市の都市計画課で資料をもらって展示に活用しようということです。

**瀧本委員**

昨年度、ひろさき卍学がスタートして、「こども博物館」という企画展がありましたが、1日当たり50人と厳しい結果でした。その結果を受けてか、卍学関係の企画展は、今年度も来年度も無いということで、卍学を活用した「こども博物館」

が無くなったのはどのような経緯ですか。

**事務局** 「こども博物館」は、子どもたちに来ていただきたいということで開催しましたが、現実的に学校の先生方が博物館に興味を持たないと、子どもたちは来ないというのが実情で、担任の先生方や教務主任の方にいかに博物館の取り組みを伝えていくかが大切です。

常設展で弘前の通史を紹介していますので、子ども向けの展示ではありませんが、来年以降、担任の先生や教務主任の先生方に直接働きかけられるような取り組みをして博物館の常設展を見に来てもらい、学芸員が解説する形で弘前の歴史を知ってもらう取り組みをしたいと考えています。

**島内副委員長** モデル校を作ってみてはどうか。変化していった実績を蓄積していくとか。

**事務局** ひろさき卍学に積極的に取り組んでいる学校も中にはあり、地元の歴史をどんどん学んでいっていると思います。

**出委員** 社会科の教科で津軽の歴史とか具体的に扱う単元とタイアップして授業を行うように社会科の先生に働きかけていってはどうか。

**事務局** 和徳小学校は、毎年全校で博物館に来ています。先生方がそういう認識を持っているようです。本物を博物館に来て見せて歴史を学ばせるという意識をすごく感じます。

**小嶋委員** 和徳小学校が毎年来ているとのことですが、他の学校との違いがあるのか。教務主任の研修会で強く働きかけるとか、社会科の部会で説明させてもらう機会を得るとかすればどうか。

**瀧本委員** 和徳小学校は、何の時間に来ているのか。授業の時間なのか総合的な学習の時間で来ているのか、学校行事で来ているのか、やり方があると思うので、何の形で来ているのかがわかれば、対応策も考えられるのではないかと。

**事務局** 6年生全員の時もあれば全校で来る時もあり、全校の時は弘前公園を散策してから博物館に寄っていただいています。そういう意味では社会科の時間で来ているというわけではないと思います。

**瀧本委員** あの学校ではうまくやってるなあとか、ようはロコミなんです。

**小嶋委員** 二中、城西小、西小など博物館の近くの学校に声掛けしてみてもどうか。

**島内副委員長** 博物館だけではなく、地元を良く知るとか地元を好きになる何か1つ大きなテーマでどこかと連携するとできそうかなと思うのですが。

**小嶋委員** せっかくひろさき卍学という素晴らしいものがあるのだから、継続していくべき。そうでなければ津軽の歴史を学習する機会はないと思う。先生方からしてわからない状況。継続的に続けていくシステム、方法を探らないといけないと思う。

**瀧本委員** 児童生徒たちは、展示を見てもよくわからない。触ったり、実際どう使われているのかそこまで説明しないと理解されない。単元で使えるものは何があるのか、目録の中に各学年の教科書に合わせた資料をピックアップして紹介すれば、博物館にこの資料があるから行ってみようとか見たい、借りられないかなど、博物館の利用に繋がり、学校との連携ができるのではないかと。

**事務局** 昨年の「こども博物館」の開催時に火縄銃とか具足とかを子どもたちに触らせる

と、子どもたちの目の輝きが違っていました。そういう意味で「触る」というのはとても重要だと思います。学校への資料の持ち出しなど考えていきたいと思います。

**小嶋委員** これまで何度か提案したが、学校で所管、保管している絵画や美術品のリストを作る必要があると思う。学校が閉校したり校舎が新しくなった時にそれらの行方が分からなくなったり、記録しておかないと案外粗末に扱われたりする。どのようになっているのかお聞きしたい。

**事務局** 学校整備課が担当課で、調査していると思いますので、情報収集したいと思いません。

**北原委員** 歴史の教科で、徳川の治世で江戸で何が行われたのかは勉強しますが、その時代の弘前とリンクしていない。教科書で学ぶ歴史と弘前の歴史が乖離している。そこをつなぐようなことができればいいと思うが、学校は余裕がないし、博物館の働きかけも追いついていない。

りんごのことも、貯蔵が効くから明治時代に発展したのであって、現在のふじとは違う。研究者の研究が弘前の人たちに繋がっていないところに博物館が媒体となっていけないといけないと思う。

また、モデル校を作っても生徒が学んだとしても成果はすぐには出るものではない。20年経ってわかった、ということもある。敢えて効果を測定しないのがいいのではないか。

**瀧本委員** 質の部分ではすぐ現れないかもしれないが、土台作りはしていけないのではないか。系統立った企画展の積み重ねができるように、子ども博物館にしても次にどう展開していくかというのを検討していく必要があるのではないか。モデル校にしてもただやるのではなく、どこかにくさびを打っていきながら検討していくことが必要だ。いい前例があれば、学校は他の学校を見ながらやっていったりするんで、良い事例を作ればいい形になっていくのではないか。

**出委員** 子ども博物館は、その年々で例えばりんごというテーマを決めて、教科書にある歴史の流れと津軽という地域がどうつながっていくのか具体的にわかるようなテーマで企画展を展開していくと、学校でも訪問する意味がもっと出てくると思います。

**北原委員** 印度りんごのように貯蔵しておくとう味が熟するりんごがあったから、輸出が可能になった。サムライがりんごを植えた、ということは意外に知られていない。

**瀧本委員** 土族授産のことは授業ではやるんですけどね。

**北原委員** 明治時代の土族授産とか殖産興業が青森と関係ないと思われているところがある。

**出委員** 弘前ならではのことを発信していくといいのかなと思います。

りんごに関してだと、農園やりんご公園やジュースの工場とか学校では必ず行くので、それに関連させるとおもしろいし、子どもたちもこういうことが博物館にあるんだと認識するのではないか。

**事務局** 郊外の小中学校ですと自分たちでりんごを作っているところもあります。

**出委員** キリスト教関係の教会も弘前市内にはたくさんあって、優れた祭壇彫刻がありま

す。

**小嶋委員** 学校の所管、保管している絵画や美術品のリストのことに戻りますが、例えば葛西四男の絵の所在がわかれば、借りることもできると思うので、やはりどこに何があるのか把握しておく必要があると思う。

**議長** 各委員が興味を持たれることは1つでも実行できればいいと思います。  
次に、案件（3）令和2年度事業計画について、事務局から説明をお願いします。

**事務局** 【配付資料に基づき、事務局より説明】

**議長** 案件（3）につきましてご意見ご提案はありませんか。

**出委員** 入館者の年代は何歳くらいの方が多いのですか。

**事務局** まず、有料と無料がありまして、無料が弘前市内の小中学生、留学生、障がい者の方と65歳以上の方が対象者で、昨年度の実績ですと55%が有料、45%が無料となっています。45%の無料のうち、子どもはそれほど多くなく65歳以上の方が非常に多い割合となっています。

**出委員** 企画展の内容を見ると、集まってくる年齢の方はだいたい年配の方というのが予想できます。別の年齢層を獲得するための企画を打ち出していかを考えないとなかなか集まってくる人数は変わらないと思います。これは企画展の内容と関わってきますが、市立博物館がずっとお年寄りが好む内容の企画展だけでいいのかということになりませんか。

**事務局** 確かに入館者は65歳以上の方が多いのですが、入館者数は特別企画展の内容が大変影響しています。

**出委員** 例えば、ミュージア展だとすれば、もっと幅広い年齢層の方が来たのだろうと思います。特別企画展を組む時に市立博物館だけで決められないのは重々わかりますが、どの辺の年齢層に訴えかける展示なのかでだいぶ変わってくるのではないかと思います。

**事務局** 市としても支出を抑えるということを常に求められており、特別企画展を1本やると1千万円くらいかかります。コーディネートしてくれる業者さんから情報提供を受けて予算内で何とかやりくりしているという状況で、出委員がおっしゃる博物館が目指す方向性の中でこのあたりの年齢層をターゲットにしよう、そうできればいいのですが現実的にはそうならないのが実情です。

**出委員** 例えば業者に頼らずに自力で企画展を作るとするのは財政的には無理なのでしょうか。

**事務局** それを実現させるには、何年か越しで企画をしていく必要があるかと思います。今の当館の職員体制では不可能です。全国のどこかから大量に作品を借りてきて特別企画展を企画してやる体制にはなっておりません。

**出委員** 例えば1室だけでも自力で発信できるものであれば、タイトルや方向性も自分で決めることができると思います。初めは小さい規模でも出来たらいいんじゃないかなと思います。

**事務局** そういう意味では、通常の企画展もすべて博物館の資料だけでやっているわけではなく、現在開催中の「殿さまの暮らし」も東京から資料を借りています。博物館

全体を特別企画展のみの内容にしたいとしても、学芸員が調査をして開催できるという体制にはなっていないのが実情です。

それから、今年の特別企画展開催中に、常設展を見に来たのに展示していなかったので入らないで帰られたお客様が非常に多かったので、来年度については常設展の内容を圧縮して残す予定です。せっかく弘前の歴史を知りたくて来館した観光客にも対応して集客を図りたいと考えています。

**出委員** 来年度は、弘前れんが倉庫美術館が開館するというので、若い世代の層が弘前にやって来る可能性が高いのではないのでしょうか。そういう機会に博物館にもお客様が来るような企画を打ち出せばいいと思います。

**事務局** 企画展1の「津軽クリエイター列伝（仮称）」は、美術館に展示していない縄文時代から現代までの郷土作家の作品を展示して、博物館への集客を図るため企画したものです。

**出委員** クリエイターというたとえばどういう作品を展示するのですか。

**事務局** 縄文時代の「いのっち」から始まりまして、弘前の土地の中で受け継がれてきた造形であるとかそれを見ながらどういう想いで作られてきたのか見ていただけるように、現代ですと佐野ぬいさん、奈良岡正夫さんといったあたりまでカバーしていけるように準備しております。

弘前れんが倉庫美術館の方は海外の作家さんに来ていただいて、弘前で感じたものを造っていただくということです。博物館は、弘前という土地で生まれ育った作家の作品だったり、弘前という土地で生まれた作品なり、弘前に関係のある作品を展示していきたいと考えております。

**出委員** 弘前れんが倉庫美術館を好む年齢層と博物館の来館者の年齢層が合えばいいと思います。

**事務局** 博物館は歴史、常設展を通年で見ていただくことを基本に、ねふたについても来年は竹森節堂没後50年、石沢龍峽没後40年という年でもありますので、それらを組み合わせでしっかり歴史を紹介していく展覧会の内容にしたいと考えております。

**出委員** SNSで情報発信をしていますか。

**事務局** しておりません。ホームページには掲載しております。

**出委員** 若い世代の人たちは、むしろSNSから情報を得るので、是非始めた方がいいと思います。弘前以外の人たちもSNSから情報を得ていると思いますので、来館者数に多少なりとも影響が出るのではないのでしょうか。

**小嶋委員** 先ほどいのっちの話がありましたが、弘前に限らず津軽地域というのであれば、つがる市の遮光器土偶をレプリカでもいいから展示すればいいのではないかと。

**事務局** 縄文時代はいのっちがありますし、晩期の雲形文とかデザインが発展してきたものを始まりとしながら郷土作家に繋げていくというイメージで考えています。

**出委員** たぶん、そういうものの造形の方が若い人たちに受けるのではないかと。そういう方が注目されるのではないのでしょうか。

**北原委員** インスタを活用してはどうか。博物館の外観も十分インスタ映えします。

- 出委員** 自分も以前前川建築をインスタにあげたら、建築家があつという間に食いついてきました。むしろ強味なので、是非やっていただきたい。
- 北原委員** 「今日の博物館」という題で、桜から雪の季節まで毎日載せてもいいくらいの景色です。今、情報はインスタです。
- 出委員** 若い人とかいろいろな職業の方が見えていますので是非活用してください。
- 事務局** 当館でも来館してインスタをやっているお客様に「アップしてもらえませんか。」とお願いしている状況です。ホームページについても博物館独自でどんどん発信していきたいと思っています。
- 北原委員** 今はもうフェイスブックじゃなくてインスタですよ。文字を読まない人が増えているし、今は写真ですよ。
- 事務局** 博物館としても撮影可能な個所を増やして、来館された方がアップできるよう整備しているところです。
- 島内委員** ホームページに写真と俳句を載せてフォロワー数を競うとか。
- 小嶋委員** 俳句の投稿の件ですが、常設展についてやってもいいのではないかと。
- 北原委員** テーマを弘前公園の紅葉についてでもいいのではないかと。こんなに立地条件がいい博物館はない。
- 他市で入館者数を増やすために文学館でマンドリンのコンサートがあった。博物館でも同じように入館者数を増やす方法として響きや雰囲気がいいのでミュージシャンに場所を提供するなどしてはどうか。
- 瀧本委員** 所蔵資料の紹介だけではなく、施設を使うという発想はいいと思う。
- 現状の学芸員の職員数で調査研究しながらの企画展を年間5回は多いし、厳しいと思う。私はせいぜい3回でいいと思っている。ねぶた展は続けていって、特別企画展が1つ入って。例えば開館〇周年と区切りのいい年を目掛けて準備して、長期的な計画に基づいた企画展と日常の企画を組み合わせながら運営していくのがいいと思っている。
- 北原委員** ねぶた展は必ずやるとして、必ず入館者数が見込める展示を2つやるというのでもいいと思う。
- 事務局** 博物館利用者の半分を占める65歳以上の方々からは、例えば冬の展覧会については4か月で長過ぎるというご意見をいただいております。コンパクトに何回もやってほしいという要望があります。
- 議長** 来年がチャンスだと思う。弘前れんが倉庫美術館がオープンすることで博物館の立ち位置が明確になって市民の方にはわかりやすくなるのではないかと。市民の方は美術館の役割が全部弘前れんが倉庫美術館に行ってしまうのではないかと考えている人が多かった。博物館は、これまで曖昧な形で歴史民俗人文科学、美術どちらもやらなければならなかったが、集中してやるべきものをやることによって、常設展の展示替えもできるかもしれません。
- 事務局** 博物館は平成29年度まで年6回企画展を開催してきました。学芸員は2人で1人が年3回企画展を担当していたので展覧会を回すだけで精一杯の状況でした。学芸員がもう少し余裕をもって仕事ができるようにと30年度から5回にして、今年

で2年目という状況です。

**北原委員** 学芸員がじっくり勉強できる時間が必要だと思います。全国からここにしかない資料を研究したくて来るわけで、学芸員はそれに対応する勉強が必要です。

企画展を回すだけでエネルギーを取られているのであれば、企画展は減らして、集客が見込める展覧会だけにして、あとは細かく館内の展示物を変えていくとか、来館者の満足度を考えていく必要があると思います。

**事務局** 確かに展覧会の本数を減らしてもそれだけの入館者数入館料収入が見込める企画展があれば理想的です。

**北原委員** それをこれまでの内容を検討して絶対人が入る企画展を1ついれて、学芸員が勉強する時間を作る必要があります。

**出委員** 来年度の特別企画展2の名称で、(仮称)「20世紀フランス絵画の精髓」とサブタイトルがついていますが、全く何が言いたのかわからないと思います。これでは観覧者はなかなか集められない。もっとキャッチーな言葉にできないのかと思いました。どの辺の人に訴えたいかで使う言葉も違ってくると思います。何かありきたりのものを集めてやるような印象を受けました。

**事務局** これは、巡回展の相手方の意向があるわけで、相手方に提案ができれば相談して変えたいと思います。

**小嶋委員** 来年度のねぷた展では石沢龍峽の没後40年ということですが、龍峽の襖絵で見事なものがあるので、紹介しておきます。

**瀧本委員** 後援会についてですが、博物館には後援会があって、グッズ販売をしているが、高岡の森弘前藩歴史館にはない状況です。館長が同じだし、後援会に高岡の方も含めることはできないか。

**事務局** それについては検討しましたが、博物館は弘前市立博物館の後援会なので高岡の方をカバーしての後援会はできないという結論だったと記憶しています。確かに後援会があれば、館としてできないことでも後援会でできることは結構ありますから、組織を作れば良いと思います。

**議長** 各大学と収蔵品に関する研究に助成するなどの取り組みはできないか。

**事務局** 今まで博物館が大学に助成して研究のために補助金を出したという実績はありません。

**議長** 例えば博物館と大学が連携して何かをするときに民間の企業がそれを応援するのは不可能ではないと思います。資金をプールして収蔵品に関する学術研究などができるとより高みに行けるのではないか。今まで収蔵品に関して論文を書いたとかそういうことはなかったのでしょうか。

**事務局** 当館の収蔵品を特別利用で調査してそれぞれの研究者の方が発表していくという事は今までも多々ございました。

**議長** それを博物館としてまとめることはしないのか。

**事務局** それはしないです。研究した方が論文を発表していくことです。

**議長** それを博物館が主体でやるというのは難しいですか。

**北原委員** 研究者は自分の研究の方向性とか流れがあって、それに絡む博物館の資料を調査



に来るということなので、それを目的としてということはないですね。

**瀧本委員** もしそれをやるとすれば、博物館の学芸員の方にやって欲しいし、その蓄積を研究紀要として作ってほしい。今2人学芸員がいますが、研究紀要を作っていくことで博物館の収蔵品の意義をPRしていける。

**北原委員** 時間も必要です。

**事務局** そういう意味では先ほどの展覧会の数を減らして時間を作ればという話に戻っていきますが、今なかなかそうはいかないので、年間2つくらいは館蔵品を紹介するA4ワンペーパーにまとめたものを作って、来た人に差し上げたりはしております。そういうものをまとめていくと何かの冊子にはなるのかなと思っております。あとは博物館後援会の費用を活用して長谷川先生が始めたもので「歴史シリーズ」というものを発行していますので、昨年度は出せなかったのですが今年はまた出したいと思っています。そういうものを地道に使いながら資料紹介はしているという状況ですが、研究紀要という形での大掛かりなものは今はなかなか難しいといった状況です。

**議長** 他にございませんでしょうか。

それでは、次に案件（4）その他ですが、事務局から何かありますでしょうか。

**事務局** 特にございません。

**議長** 本日は貴重なご意見をたくさん頂戴しました。

以上を持ちまして令和元年度第1回弘前市立博物館協議会を終了したいと存じます。ご協力ありがとうございました。